

横浜市瀬谷区における区民文化センター基本構想検討委員会(第4回) 議事録

日 時：平成27年2月25日(水) 13:30~16:00

場 所：瀬谷区役所5階大会議室B

出席者：(1) 委員9名

間瀬勝一委員長、相原信行副委員長、浅野康則委員、宇佐美あや子委員、小川肇委員、清水靖枝委員、鈴木紀代子委員、新谷たか枝委員、松本幸一委員(50音順)

(2) 事務局等

瀬谷区長、瀬谷区副区長、区政推進課長、地域振興課長、文化観光局文化振興課、株式会社櫻井淳計画工房 ほか

欠席委員：足立委員、佐々木委員、中野委員

資 料：別紙のとおり

傍聴者：1名

議事内容

事務局

<定足数の確認>

「横浜市瀬谷区における区民文化センター基本構想検討委員会条例」第6条第2項に「委員会は、委員の過半数の出席がなければ開催することができない。」とある。現在の出席委員数は定数12名のうち9名であり、出席委員数は過半数以上で本会は成立している。

<会議の公開>

「横浜市瀬谷区における区民文化センター基本構想検討委員会運営要綱」第4条により、一般公開と定められており、本日1名の傍聴者がいる。

<議事録の確認>

第3回基本構想検討委員会の議事録について、記載内容等に修正等ないようであれば議事録は確定とさせていただきたい。

浅野委員

(修正についてコメントあり)

事務局

ただいまのご発言の部分について修正させていただく。他によろしければ、これで確定とさせて頂いて、後日ホームページ上で公開させて頂くので、ご承知置き頂きたい。

それでは、以降の進行は間瀬委員長にお願いしたい。

<議事>

間瀬委員長

今日はまず前回議論のあった答申案の説明を頂くが、その前に利用料金の事、諸室の役割その他について確認させて頂きたい。

利用料金について高いという話があったが、横浜市の区民文化センターで統一して定められているので、特段高くしたり安くしたりという事はできないのではないかと思う。しかし、利用料金についてご意見を頂いたので、それも含めて答申案に盛り込んでいきたい。後ほど事務局から説明して頂く。

それから、諸室の多目的な利用について。今までのご意見の中ではギャラリーも多目的にという事だったが、ギャラリーの場合、ドアや仕切りの部分等からどうしても音が外に漏れてしまう。練習室、音楽ルームと同様の防音というのは難しいと思われる。そうすると、例えば、あまり大きい音の出る楽器は遠慮してもらうなど運営の面で少し工夫が必要かもしれない。ただこれは、いろいろと設計のなかで工夫して頂けると思う。前回のお話を伺っていて、音楽ルームと同じようにギャラリーも使えると思われてしまうといけないので、一言だけ言わせて頂いた。

逆に、音楽ルームもギャラリーと全く同じように利用するのは少し難しいかもしれない。ただ、お互いが補完して使えるというような設えはして頂くのかなと思う。その辺りも文言の中で盛り込ませて頂くと思う。

それでは、事務局から今回の資料についての説明をお願いしたい。

事務局

資料1 説明

事務局

冒頭、間瀬委員長からご説明頂いた各施設の多様な使い方の部分については限度があるというご説明の通りだが、完全に各々の専門性に特化するのではなく、めざす姿に書いてある通り、ギャラリーや音楽ルームも式典等の多様な使い方ができるというような形でまとめさせて頂いた。

また利用料金についても補足させて頂くと、これも冒頭委員長からお話頂いた通り、利用料金そのものについては条例に定められていて、瀬谷区の区民文化センターだけ安くすると言うのは難しい。ただし、例えば緑区民文化センターではホールのリハーサル用の割引や、直前割引等いろいろな利用を促進するための割引制度というものはあるのかなと思う。そのような考えで、実際に利用する方々を踏まえた上での料金設定をしてくださというような表現をさせて頂いている。

間瀬委員長

答申案の2章から章ごとに皆さんからご意見を頂いて、追加しようとか、もう少し簡略化した方がいいなどのご意見を頂きたい。

清水委員

気になったのは、何となくわかりにくい部分があること。例えば、10ページの四角の中の下の方、「地域文化の創造を通じて」、と書いてあるが、その地域文化の創造というのは誰が創造していくのだろうか。こういう言葉はこういう文書にとっても使いやすい言葉だが、実際にはすごくわかりにくいような気がす

る。

それから 11 ページ、方針 1 の 1-3 は「長きにわたって区民に親しまれる施設とするため、あらかじめ施設の改装や」と施設そのもののことだが、1-4 が「地域文化の継承と」とあり、これは 1-1、1-2 と繋がるので、順番を逆にした方が良いのではないか。

それから 12 ページの 3-3、「あらゆる人々の社会参加の道を提供していく」とあるが、文化の創造などいろいろな言葉の後に突然「社会参加」という言葉が出てくる。この辺に少し違和感がある。

#### 小川委員

この答申案の 1 章、2 章、3 章を含めて、述べられている事はその通りという思いで聞いていた。特に異論はないが、これを現実のものとして進めていく時にどうするかということが一番大事ではないか。

区民文化センターの目的である「地域に根差した個性ある文化の創造に寄与する」という文言にしても、皆がこれで納得する普遍性のある言葉ではある。「地域に根差した個性ある文化の創造」と考えた時に、瀬谷区は歴史が古いと言っても、古い人はいなくなり、その継承をする人も継承するものも少なくなっていく。そういう部分で、ではどうやって地域の個性に根差していくのかという事を、今後、一つ一つ詰めていくことが大事。例えば、今までいろいろな事で使われてきた瀬谷区内のものをギャラリーに展示して、それを学校教育や社会教育に活かしていくとか、こういう苦労があつて街は出来上がったというような歴史の伝承など、そのような具体性を持った事柄も含めて、この区民文化センターを教育的観点に立って活用していく。これまで瀬谷区役所の中にはそのような施設は無かったと思う。これは一つの例だが、そういうものに特化したような形を取っていければと思う。

人間の生き方は、過去を見つめてこれからを踏み出すしかない。過去のいろいろなものを見ることによって、こういう歴史があつて、というような教育観点から一つ前に進める場所でもあつてほしい。

#### 鈴木委員

駅前に来るので、電車が結構騒々しくなるのではないかと思う。線路側の壁はしっかりしたもので防音にもなるような壁にすると、そこにいろいろ展示できるのではないか。使い道がもっとはっきりすると、いろいろ工夫の意見ができるのではないか。

#### 間瀬委員長

同じような造られ方をしたものに、東神奈川駅のかなつくホールがある。上がマンションになっている。1 階が商店で 2 階、3 階、4 階が区民文化センター。駅のすぐそばだが、ホールにほとんど音は入ってこない。それらはハード面でやって頂けると思うので、ご心配のところは分かるが、我々としては「こうあつてほしい」という項目をとにかくあげておく。それをハードの担当者で

検討して頂く。それでよろしいのだと思う。

宇佐美委員

平成6年ごろに文化動向調査というものを区でやっていて、たまたまその文化動向調査の本が出てきて、自分がこの時に何を言ったのかなと思って開いてみた。今言っている事と同じことをしゃべっていた。

防音や、水廻りなど、構造上の事は専門家にお任せするという事で、今ここで検討している事は、区民文化センターとしてのめざす姿であるということにこだわって意見を述べさせて頂く。文言で、あまり相応しくない、少しどうかかなと思ったり、もう少し言い方があるのではないかと思ったりする。しかし、規則の場合はもう少しきっちり言うものだが、めざす姿は少しアバウトなようだが、あまり事細かに書きあげるよりも、もう少し短い文言にして、皆さんが読んだ時に飽きずに全部読み切って頂けるような、分かりやすい文章にして頂いたら一番良いのではないか。ここに書かれていたことは全般的にきちんとしていて全部その通りという意見で整っているが、そんな風を感じた。

新谷委員

2章や他もそうだが、「瀬谷区ならでは」という言葉がたくさん出てくる。「瀬谷区ならでは」って何かなという事と、これからいろいろな方がこの施設を利用して、いろいろな発展の仕方をしていく時に、誰かが「これは瀬谷区らしくない」といってそれを止めてしまう恐れがある。変わったことをやったら「瀬谷区らしくないからダメだ」と言われてしまうのではないかと思う。どうもこの言葉はひっかかる。これは変えて頂きたい。

宇佐美委員

「瀬谷区ならでは」という事は、例えば、はじけた事をした場合、それを「瀬谷区らしくない」というのはすごく古い考え方になる。だから、そういう事にも挑戦するのが「瀬谷区らしい」という事で理解されるような言葉を使ってほしい。

間瀬委員長

どこの都市でも同じで、「らしい」とは何？と言うと諸説紛々で誰もまとめられないことが多い。「横浜らしさ」など、割と行政は良く使う言葉ではある。

新谷委員

「らしさ」ならまだ良いけれども、「ならでは」というのは結構強い表現である。

間瀬委員長

その辺は事務局に悩んで頂くという事で。

浅野委員

11ページの「既にある公会堂や地区センター」とあるが、瀬谷区というのは地理的に見て三ツ境駅と瀬谷駅しかない。そして縦に長く、横に相鉄沿線が通

っている事を加味しないと。区内の事だけを考えた文化施設の役割分担ではなく、やはり路線沿線を考えていかないと瀬谷区らしさは出ないのではないかと。

#### 松本委員

文面に関しては、疑問に思う点もあるが、全体的に判断すると理想的にまとまっていると思う。一番気になるのは、最終的に誰がどのように関わってやっていくのかが見えてこないこと。今後、運営人材や事業内容などの具体的なことが出てくると思うが、そういう文面もどこかにきちんと書いてあって、こうなっていくとあれば現実性も出てくると思う。何か理想を流しっぱなしになっているので、今度はもっと現実的にできることがあってスタート出来れば良い。理想とする所は最高に良くて、本当にこれが全部できたらすごいことだと思うので、そこを考えてもらいたい。

#### 間瀬委員長

誰がやるのかということについては、一番大事なことだろうと思っている。特に2章はめざす姿ということで、総論的につかむようになっている。私のイメージだと、これは指定管理者制度を導入するという事になると、仕様書にこういう事をやりなさいと提示し、候補者がこのように私たちはやります、という事を審査して運営する人を決めていくことになる。このめざす姿や他にも含めてだが、どうやって実現できるかということになるので、まさにそこが大事な基本になるのだろう。ただそこで「瀬谷区らしさ」とか「瀬谷らしさ」という事については、おそらくその結論は出ないかもしれない。ソフトに行くだろうと思う。ただ、このめざす姿の中で、ハードに関わるものとソフトに関わるもの、両方併記されているので、第3章、4章でより具体的にハードの面、ソフトの面の議論をしていきたい。

第3章は、施設の構成、全体の考え方、それから個々の諸室、ギャラリー、音楽ルーム等の諸室毎にもいろいろと項目が出ている。これについて議論をお願いしたい。

#### 小川委員

私の家は明治の初めには間違いなく瀬谷にいて、瀬谷の歴史はかなりいろいろ知っている。そういういろいろな事を踏まえて、瀬谷区ということを省みると、瀬谷区がもっと愛おしくなる。これが人間だと思う。

文化協会では、レッスンをレッスンとは言わない。稽古と言う。稽古の稽は振り返る、振り返ってみるということ。稽古の古はいにしえ。過去を必ず振り返って今を見る。これからを見る。こういうことは、人間にしかできない。

瀬谷区の歴史を踏まえて、ここでどうしろというのではないが、瀬谷区を愛する人、瀬谷区の住民が、瀬谷区に住んで良かったなというような、気楽に集まれるような区民文化センターであってほしい。

案を見るとすごいガチガチに仕切られている。ギャラリーと音楽ルームを区切らなければだめだろうか。コンベンションとか集会とか式典とか、諸々に使

う場合は、使い勝手が悪くなる。

私も音楽会等に良く行っていた。そのくらい音楽は好きで、大切に思っていたし、音楽の機能を持つ施設にするということも区民文化センターの一つの役割であるかもしれないが、これをもう少しうまく融合した、まさにコラボレーションした使い方ができたらと思う。

また少し話が離れるが、FM 瀬谷なんかがあったらと思う。夢かもしれないし、お金も掛かるかもしれないし、やってみたら問題点もあるのだろうが、瀬谷区ならではのいろいろな情報や、あるいは瀬谷の近隣のことをいつも伝えてくれるような。

私の言いたいのはそういうこだわりのない、使う人が工夫して各自で衝立を設置するなど、利用者もいろいろと考えながら使う区民文化センターになってもらいたい。

#### 間瀬委員長

これは趣旨としては、ギャラリーはギャラリーということではないということだろうか。割とその辺をアバウトに、一生懸命努力している答申案という感じがしている。ハードのことであまり言えないかもしれないが、あとはどうやって運営していくか。そこが一番問題になるだろう。

#### 宇佐美委員

小川委員がおっしゃった気持ちは本当に良く分かる。瀬谷区でも、以前、有名な方がバイオリンを演奏しに来てくださる音楽会が行われていた。瀬谷でも素晴らしい音楽会が開かれて聴けるといのは、ものすごくうれしかった。楽しみにしていたが、やらなくなってしまったので、とても寂しかった。新谷委員が頑張ってくださっているのは、とても楽しみ。

でもそういう事の中で、何を使うにしろ、使う側がどのように使うかで場所を選び、その中のレイアウトなり何なりは自分たちで考えるということが基本ではないか。ただその時に、あまり会場の使い勝手が悪いようだ、使えないという所がでてくる。それをどうにでも使えるようにしておいて、ある程度のものは自分たちでやろうという考え方をして頂ければと思う。

倉庫を作ったら、何でも入れるようになってしまし、何が入っているのか分からないようになってしまわないように考える必要がある。この建物を建てた時には、この倉庫にはこういうものを収納しておくために造ろうという基本的なことをしっかり考えてやって頂いたら良いのではないか。

#### 浅野委員

施設構想は、一番重要なものと思う。区にお聞きしたいが、ギャラリーと音楽ルーム、合わせて 500 m<sup>2</sup>なのか。この間の議論では 500 m<sup>2</sup>程度という、確かそのような文章だったと思う。細かな事だが、リハーサル室とか他のものも含めての平米数なのかを聞きたい。確か、前回の資料の中にも 500 m<sup>2</sup>程度という事が明記されていたかなと思う。ギャラリーと音楽ルームの面積を合わせると

どのくらいになるのか。

**事務局**

前提として、全体の大きさとして横浜市で今まで造られた標準的な区民文化センターで、ホール部分を除くと大体 1,500 m<sup>2</sup>という事は申し上げた。1,500 m<sup>2</sup>の中で考えて頂きたいという事で、特にギャラリーと音楽ルームを合わせて 500 m<sup>2</sup>というご説明は申し上げた事はないかと思う。

前回お示しさせて頂いた資料は、A、B の 2 案だった。B 案で、ギャラリーが 300～350 m<sup>2</sup>。音楽ルームは、席数として 100 席程度ということで出させて頂いた。ギャラリーと音楽ルームを合わせた面積では難しいので、区民文化センターの総面積という形では示している。

**浅野委員**

ギャラリーと音楽ルームを両方合わせないと、瀬谷区美術展を開催できない。今、瀬谷地区センターの体育館で 600 m<sup>2</sup>くらいの広さで開催しており、瀬谷区美術展が使っていくとなると、少なくとも 500 m<sup>2</sup>が必要になる。瀬谷地区センターの体育館が 500 m<sup>2</sup>ある。面積について、ある程度合わせたらこの位の広さになるというものを示して頂かないと、イメージがわからない。もう一つ、絵の場合は距離感が必要だ。車いすが通る分の距離しかないと、迷路のようになってしまう。これは絵を觀賞するような施設としては、妥当ではない。大きくても 50 号なり、ある程度の大きさの絵を見るときには、引きがなければいけない。ただ単に面積だけではなく、そういうレイアウトも含めたギャラリーの大きさ、展示壁面ということを考えて頂きたい。

それから、先ほど間瀬委員長がおっしゃったように、もしかしたらギャラリーにも防音装置をつけなくてはいけないかもしれない。防音装置をつけるのであれば、同じく防音された音楽ルームがあるので、練習室は設ける必要がないのではないか。さらに、この音楽ルームではどういう対象の音楽をやるのか。例えば、そんなに大きなクラシックを大々的にやるスペースはない。管弦楽とかで、中学生や高校生の吹奏楽が入るのには小さすぎる。そうすると、大きいものはやはり住み分けで、公会堂という事になるかと思う。100 席から 150 席のスタッキングチェアが入る部分となると、どういう音楽をできるかという事のイメージができると思う。その辺を考慮して、もし両方使えるような部屋になるとすれば、ある程度の 500、600 m<sup>2</sup>を瀬谷区美術展でできるような大きさを確保して頂きたい。

**事務局**

第 3 回委員会では、現在使用している瀬谷センターの体育館は大体 550 m<sup>2</sup>ということを説明した。面積等の話については、ご意見として伺いたい。どういう形で反映させていくかということについては検討させて頂きたい。

**浅野委員**

もう一つ、細かいことだがピックアップレーンをエントランスやホワイエに設

置するということを明記してあるが、これを合わせるとどれくらいの面積になるのか。そういうものを設置する事によって、未来に向けての多様化の対応となるのか。

瀬谷区の美術展の場合、出展者が 250 人いる。これが 300 人になっても対応できるようなピクチャーレールを引くとか、ホワイエの部分でそういうものを設置してあれば将来、増えても対応できる。

これは最初に私が申し上げた通り、相鉄沿線上にそういうギャラリーがない。大和にもできるけれども、おそらくそれを展示できるようなスペースはとれない。そういうものを鑑みて、ギャラリーと音楽ルームというものを構想して頂けたらありがたいかなと思う。

事務局

瀬谷センターでの展示の際の壁面長は想定で大体 210m位となっている。前回の案としてお示ししたものでは、これも掴みでしかないが、計算上、エントランスや廊下を含めるとほぼ同等の 210m位で、今瀬谷センターで行っている長さの壁面は取れるのかなということ考えている。

浅野委員

もう少し長く、というより、長さだけではないのだが。

間瀬委員長

この辺はまだ全体が何も決まっていないので、今の美術展を少し超えるくらいの展示壁面長を確保できるようにということを留意しておいて頂ければと思う。

先ほど練習室の話と音楽ルームの話があったが、私の今までの経験では、クラシックをやる方にとって、セミコンのピアノを1台置いておくと、音大にこれから行こうという人とか、音大生の練習の場になる。それから弦楽のアンサンブル位はできるようになる。それからもう一部屋は、若い人たちのロックのバンドの練習に充てて、これは大変賑やかになる。

音楽ルームというのは、やはり別の使い勝手だろうと思う。音楽ルームは、例えばコーラスの方の練習、30人、50人位のものであるとかに使う。練習室自体は、小ぶりの Box in Box という部屋の中にもう一部屋造ってしまうので、かなり小ぶりになってしまう。練習室というのはおそらく瀬谷区では初めてなので、最初は相当周知しないとダメかもしれない。

浅野委員

今、公会堂に2部屋あるが、重複してしまうと思う。ベースアンプやドラムセットとかは置いてないが、今ある公会堂の施設にアンプを用意すれば良いのでは。すごく立派な防音施設で鏡もある。多分ダンスとか、そういう多目的な利用もできる。

間瀬委員長

大事なのは、ドラムセットとベースギターのアンプが置いてある事。要する

に、それを持ってこなくても、ギターだけ持ってくれば良い。そうすると集まってくれる。後から設置することもできなくはないが、メンテナンスにおいて、専門的な対応が必要となる。練習室と音楽ルームとは規模とか運用の仕方が少し違うことを、今までの経験から話をさせて頂いた。

## 松本委員

今までの話の延長になると思うが、前回の話では、B案では300~350㎡のギャラリーと音楽ルームがあるということだった。音楽ルームについては防音仕様で造っていかうという話だったと思う。その中で、ギャラリーも音楽ルームでやれるようにしましょうということだった。しかし、これはすごく使い勝手が悪いし、美術としては運用の仕方が難しいと思う。特に音楽ルームのような場所に絵を飾れるような状態にはならないし、本当に使い勝手が悪くなる。ここが使えないと、ギャラリーだけとなり、エントランスとかいろいろな所を使いながらやるようになってしまうと思う。そうすると、本当の素晴らしい美術をやりようと考えても、これはもう本当の進め方ができないなという事を感じた。

音楽ルームに対してもかなり予算を掛けて立派なもの、音質の良いものを造ろうと考えているようだが、瀬谷公会堂では二つの部屋もあるし、ピアノもある。瀬谷センターにもピアノがあって、リハーサルできる場所はある。ピアノだけで考えると、そういう所でも十分歌ったり踊ったりできる。日常的に使うとすれば、そういう所で十分間に合うのではないか。

今度ここに小さい100席程度のスペースをとって音楽をやるということに、少し疑問を感じている。有名な音楽家の演奏会をやるというような施設であれば、それなりのことをやると思われるが、ボランティア活動でやっていくような音楽などなら、立派なものでなくても十分できるのではないかと思う。ボランティアでやっている方で、瀬谷センターの小さなホールでコンサートをやったり、ギターを弾いたりして、100人位の規模の演奏会を行っている。

ましてや区民文化センターで使いやすいような、誰でも来て使えるような、あまり立派な所になってしまうと、利用者が遠ざかってしまうようなことがあるのではないか。だから、できれば本当にオープンにして、誰もが使えるようにできないかと思う。

いずれにしても、音楽家を呼ぶのであれば公会堂があるから、100人規模でもそちらを使って、瀬谷公会堂の利用価値を上げて、どんどん使ってもらえれば良いのではないか。

## 新谷委員

音楽分野の立場から申し上げると、コンサートというのは、大勢の人が集まるものと、少しの人が集まるものがある。瀬谷にはやはり100人~150人位の席でコンサートができたらいという芸術家がたくさんいる。チケットを売るので100人位だと簡単に売れるので、自分のコンサートができる。そうい

う芸術的な楽しみを瀬谷区民の方に持って頂きたいという思いがあるので、駅のそばにそういう小さなホールがあるという事は長年の夢。芸術家たちの悲願なわけだから、是非それは実現させて頂きたい。それはもう、文化的な都市には必ずあるもので、絶対に譲れない。

この間戸塚の区民文化センターの素晴らしいコンサートを拝見して、様々な年代の方が皆演奏を楽しんでいた。あのホールができた目的は、素晴らしい専門的な音楽を区民が欲しいという気持ちからできたそうだが、素晴らしいコンサートだった。そして、こういう所に住みたいと思った。そういうものを瀬谷区にも造りたい。

その時に、この瀬谷の区民文化センターにも是非足して頂きたいと思ったのが授乳室。瀬谷駅には北口のショッピングセンターがあって、そこにしか授乳室がない。駅から直結の区民文化センターの中に是非、授乳室を造ってほしい。

#### 鈴木委員

美術展を見に行こうという人は、あまり頻繁ではない。やはり、音楽を聞きに来て「ああ素晴らしい」と言って美術に目覚める人もいるかもしれない。前に高円寺駅のすぐそばのスタジオで、美術と音楽のコラボを何回か見たが、絵をみてこういう音楽が合うのではないかということ演奏家がやっていて、とても素晴らしいものだった。音楽ルームとギャラリーが割と近ければ、そういうこともできるのではないかと思う。皆に、美術にも音楽にも関心を持って頂ければ、より豊かな心になって、いろいろな殺伐としたことが起こらないで済むのではないか。

#### 清水委員

先ほど瀬谷らしさとか、瀬谷ならではのことがあったが、これは曖昧だが結構重要なこと。だけど、それって誰が決めるかと皆さん心配している。ずっと答申案をめぐってみたら、それを謳っているところがない。歴史は少し触れている。瀬谷の現状も書かれている。でも、そこから推察して送り出した瀬谷らしさについて謳ってないから余計に分かりにくくなっている。どこか冒頭でもいいと思うが、それを謳ったらどうか。

では一体、瀬谷らしさは誰が決めるのかということになるが、それは今までの歴史とか、今の瀬谷の現状、要するに他所の区ではない、瀬谷らしい特色を出してみて、それで謳ってみると少し見えてくるのかなという気がする。

それから3章の施設構成について、これはもう専門家の皆さんがお揃いですから、今いろいろとお話を伺って、ああそうだろうな、としか私は言いようがない。しかし、絵や音楽だけではなくて、人形劇もあれば影絵もあるし、そういうことも全部踏まえて考えていかないといけない。

この答申案は今後の運営の元になると思う。そうすると、いろいろな希望を今言っに入れ込むのもさることながら、文面そのものについて少し気をつけて見ていかななくてはならないところで、13ページのめざす姿の実現の4つ目に違

和感がある。「高齢者が行う地域活動など、様々な文化活動を」は分からない。それだけではなくて「観賞、講座への参加、ボランティア」のボランティア等も分からない。「様々な関わりが可能となる施設機能」これもどんな施設機能なのか、何なのか分かりにくい。こういう言葉も、あまり分かりにくい文言を入れてしまうと、今度は後で運営していく時に、一体これは何なのということになるのではないかと。文言が変わると分かりやすくなるのではないかと。後は機能の話なので、専門家の方がそれぞれ言って頂いたことでいいと思う。

間瀬委員長

ここは、幾つかの主旨が混じっているようなので、ちょっと整理をしてほしい。特に後段の部分。様々な方が運営とか、実際に自分が表現をするということに関わるといふ、そういったことが言いたいのではと解釈した。

清水委員

では、そのための機能は何かということ。全体的な機能とは部屋全体の造りのことなのか何なのか、それが分からなくなる。

間瀬委員長

瀬谷の場合、ギャラリー中心の区民文化センターという議論になっている。そうすると、この中で具体的に天井高が3mとか、比較的大きな作品で50号とか、具体的な数字がここに出てきているが、ここはあえてもう少し自由度を持たせた方が良くないかと。天井高が3mでいいのかと思う。

浅野委員

高い大きな絵を展示する時には4mくらい必要になる。ただ、これからは大きい作品を出したい方は市の中心部の施設に行けば良い。地域で活動している人たちは、大きい作品を出す時は100号程度。その程度の大きさだったら、3mちょっとあれば十分。高齢者の方がこれから展示する時に、高い位置だと危ない。ならば、3m程度に抑えてもいいのではないかと。50号と限定したのもなぜかという、瀬谷区美術展の一番大きい号数が50号だから。50号も100号も縦と横では違う。100号の大きさが、大きくて160cm。横が130cm。この程度の作品が掛けられれば、ある程度地域のニーズには沿っていくかなと。それから中学生や高校生も大きいのは50号を描いているが、普通の展覧会をやるのなら、150号200号に対応するような壁面数や高さは要らない。

間瀬委員長

比較的大きな作品で100号程度ということであれば、高さもある程度必要。それから心配なのは書道で、2～3枚つながる連作の場合、3mだと上と下が寸詰まりになってしまうので、その辺も考慮して頂きたい。そうすると今度は天井高がある程度高いと、仕切りの壁があまり近づけられない。展示のパーティションの配置などを考慮して頂く必要がある。具体的には建物が真四角になるのか長方形になるのか分からないので、その辺は調整して頂くとして、この天井高は、3mというのと3mで造ってしまうかもしれないので、「比較的大きな

作品（100号程度）」位の表現で、そうすると天井高、引きの問題というのは大体見えてくると思う。

もう一つ気になっていたのが、音楽ルームに100人程度のお客さんが集まるとなると、その動線をどのようにするか、どこでチケットのもぎりをするのか。どこからがコンサートをやる時の仕切り線になるのか。避難の動線については書かれているが、お客様の動線、入場する時の動線がない。これも文章の中に入れて頂いて、具体的に図面に落としていく時に考えて頂きたい。

小川委員

皆さんの意見を聞いていて、13ページのめざす姿の実現ということで、「文化活動の場として必要な機能を備えた専門的な施設であることが求められます」。その下に「音楽ルームと練習室には防音対策を施す事が望ましい」、その下が「専門的な利用の機能を持ちながらも、特定の目的だけではなく、展示や練習・発表、集会や式典、懇親会等の他の用途でも利用ができるような諸室が求められます」。この両方のコンセンサスを得るのは相当難しいと思っている。

そこで一つの提案だけれども、ギャラリーと音楽ルームを、両方を防音にして、美術の展示もできるというものはどうなのか。検討することはできるだろうか。費用の問題もあるだろうが。

間瀬委員長

面積が大きいので経費はかかると思う。音楽練習室の比ではない。

事務局

諸室の防音という話だが、小川委員の言うとおりの経費的な部分もあるが、それ以外にも防音すると部屋の広さが総体的に狭くなるなどの影響もある。絶対できないというわけではないが、事務局としては、ギャラリーに関しては本格的な防音については行わないという考えでいる。

小川委員

華道とお茶は一体でやることが多い。このギャラリーでは行えない広さであることを行政は頭に入れておいて頂きたい。そうするとここは使えないということになってしまう。かといって展示を小出しにしてやるということにもいかない。音楽ルームの有用性、重要性は良く分かっているが、非常に難しいとは思いますが、上手く両方使えるような何らかの提案ができてもらえればありがたいと思う。

間瀬委員長

授乳室については、公の施設にはこれからは必要になってくることだろうと思うので、是非お願いしたい。また、トイレの話もあまり細かくは触れてないが、例えば福祉のためのトイレも必要になってくるであろうし、ここには出てない様々なことが、具体的な図面になると出てくるだろう。

大変活発な3章の意見だったが、是非前向きにご検討頂ければと思う。では4章に進めてよろしいだろうか。

今度は運営になる。先ほどからずいぶん運営に近い事をご意見を頂いているが、改めて伺いたい。

#### 清水委員

運営は、どんな方が運営しているかです。いぶん変わるので、その運営をしていく、指定管理者を選定する委員が実は大事。瀬谷の事も良く分かっている人が委員になって頂かないと、素晴らしい指定管理者は選ばれない。まず、基本はそこだと思う。専門家を一人くらい入れてもいいが、そうだとまた違ってきってしまう。

自分も指定管理者の審査をやることもあるが、提案書はものすごく上手に書ける。それで結構通ってしまう。ところが、提案書には現れない部分を審査員がいかに見るかが大事。だから、手を挙げた指定管理者もさることながら、それを選考する委員をどうするか、これが一番大事になる。そのへんをきちんと押さえて頂ければ大丈夫かなという気がする。

方針の「文化を創造し、未来へ継承します」の一番下、「コスト意識を持って運営することが求められます」とあるが、これは当たり前のこと。ただ、あまりコストばかり言ってしまうと、皆さんの使い勝手が本当に悪くなってしまう。だから、それも踏まえてきちんと提案できる人をいかに選考するかが大事。

#### 鈴木委員

この施設が皆さんに使い勝手がいいように運営していくことが一番いいこと。瀬谷のいろいろなことを知っていらっしゃる方が、区民のためにどうしたら良いかという事を考えて、あまり細かい、ややこしい言葉ではなくて、大まかな、本当に基本のことだけきちんとして、あとは使いやすいようにしてくれる方が指定管理者になってくだされば一番やりやすいのではないかな。

#### 松本委員

私もその辺りは心配なのだが、ギャラリーはギャラリー、音楽ルームは音楽ルームとなると、指定管理者としては、借りたい人が運営した方がやりやすいということになる。私たち区民の声で区民文化センターを造ろうという理想的な事をたくさん挙げたが、それは誰がどのようにやるかという所で、指定管理者にどうやって入っていいのかということにもものすごく疑問を感じる。そういう場合には、やはり区役所がそれぞれのリーダーを選んで、そこでまたチームを作って活動をできるようにしていくというような展開をしないと、せっかく作っても、これだけで終わってしまうような気がする。ギャラリーができました、音楽ルームができました、後は使ってください、というような事になってしまうと、もうその後の使い方はないと思う。

せっかくここまで理想的な事を挙げているのだから、やはりそれを育てるためにはどうするのかという事が大事だと思う。ではそれを誰がやるのかという事になるが、ボランティアは今たくさんいろいろな事をやっているが、ボランティアでやりなさいと言ったって、これは区民文化センターでなくても、瀬谷

センターもあるし、いろいろな所がある。そういう所で十分ボランティアとしては活動しているから、そういう人たちに区民文化センターでやりなさいと言っても、なかなか活動が活発になってこない気がする。

例えば演劇をやるとしたら、育てるために区としてどういう手を打って、市民が集まってそういうものを作り上げていくか。区役所がめざす姿にあるような理想的な事をどうやって育てていくかという事になると、お膳立てをするようなしっかりしたリーダーが入ってこない、理想で終わってしまう気がする。そこをどうするかという事を考えなくてはいけない。

文面だけで、我々もこれは本当に理想とするからやりたいという気持ちはたくさんあるが、きっかけもとっかかりも無いし、美術は美術、音楽は音楽でというように、それぞれ適当にやるという感じになってしまう。せっかく瀬谷の良いものを出そうと言っても、そのまま終わってしまう。

**間瀬委員長**

設置自治体に対してのご提言ということになるだろうか。

**小川委員**

やはり人間が管理するのだから、ここに慈悲心というか、運転のハンドルなら遊びがある。これがそういう所もしっかり加味した、遊びすぎたら溝に落ちてしまうが、暖かい人間性も持った施設管理運営、非常に難しいけれども、そういうような形があると良い。

**宇佐美委員**

管理して頂いている職員の方に対しても、結局お互いの感謝の気持ちを持ちながらコミュニケーションを図るという事、これは絶対にしてはいけないとか、決してその人の迷惑に掛かるようなことはしてはいけないとか、そんな事を考えながらやっていると、お互いが信頼というものを築き上げる事ができる。1年、2年ではなかなか難しいかもしれないが。

華展と茶会も今度 27 年位になるが、本来ならばお願いしてもできないようなことでも、して頂けるような事も出てくる。だからやはり、管理者になった側の運営の仕方、心の持ち方ではないかと思う。それにはやはり使う側の気持ちもそれなりに持っていかなくては、どこまで行っても上手くいかないのではないかと思う。

さっき小川委員がおっしゃったように、面積の問題で、この大きさであれば華展と茶会は難しいだろうという事は、私は痛切に感じていた。区民文化センターでやりたいと思っているが、それだけの点数が飾れて、茶席が設けられて、体験コーナーも持って、それらの事を含めて開催した場合、それだけのことが収容できるかどうかと考えると、中々難しい問題で、口にする事が出来ないで黙っていた。

**松本委員**

質問だが、指定管理者の施設で絵を展示した場合、傷つけたり汚したりした

ときに、全部直してくださいと言われるのか、施設の方でやっているから良いですよと言われるのか、それによって考え方が全然違ってくるし、使い方も違ってくる。それはどうなるのか。

**間瀬委員長**

基本的には、利用者の方のトラブルで破損・汚損した場合は、やはり起因者であるご本人に全部弁償して頂くということになると思う。だけど、例えば、少し汚れたくらいの場合は、それは何とかなる。

**浅野委員**

瀬谷駅前の施設であるという立地条件であれば、仕組みを考えていくと、地域の活性化と商業施設の上手いコラボができるかなと思う。戸塚では上のコンコースで演奏活動をしていたりする。そういうことにうまく行政の方たちが協力して頂ければ、意外と活性化はできる場所だと思う。北口には広場がある。例えば和太鼓だとか、そういう商業ベースも含めた上でのお祭りみたいなものももし実現できれば、地域住民が一体化した一つのギャラリー、一つの空間というものが創造していけるのではないかと。これは個人がやるには無理があるので、良い立地条件なのだから行政も含めて、皆さんが協力しながらやれば、工夫一つで未来に向けての瀬谷区民文化センターとしての提示ができると思う。

**清水委員**

指定管理者に任せる不安というものを皆さんお持ちだった。もう一つ、運営委員会というものがあると思う。これは、そこを利用している方が入っている。この運営委員会と指定管理者が常に情報をやり取りして協力していくと、指定管理者だけにお任せするのではなくなる。その運営委員会の組織の事をどこかに謳っておいて頂いた方が後々良いのではないかと思う。そうしたら、それなりに皆さん方の意見が反映できるのではないかと。

**事務局**

横浜市では一般的に、区民文化センターでは運営委員会というものは設けていない。地区センター等では、地域の方々と運営委員会と言う形で調整を行っているが、区民文化センターでは、運営委員会というものは持たずに、事業に対しての企画委員であるとか、運営ボランティア等の形で参加を行っている。だから、作りませんという話ではないが、今までそういう前例はない。

**清水委員**

そうやって決め付けるのは良くない。瀬谷の区民文化センターは運営委員会なり何なりを持って一緒にやっていったら、もっと良いものができるよという提案である。先ほどから瀬谷独自の、瀬谷らしさと中に謳っているのは、そういう事も含めてのことだと思う。そこであまり否定しないように。

**間瀬委員長**

指定管理者が諮問機関として区民、専門家を集めて委員会を作って意見を聞きながら運営してほしいという提案はあり。ただそれをするかしないかは先方

次第。もう一つ指定管理者制度の全国いろいろな例を見て見ると、やはり彼らは営利団体ということは忘れない方がよい。なので、1時間余分に開けるといことは1時間余分に儲からなければならない。公的な財団がやっている所もあるし、NPOがやっている所もあるが、その人たちの人件費を誰がどう払うかという事になってくる。今の運営の意見を市民から聞くための仕組みを作る提案をすることなど書けば、指定管理者は全員提案してくるので、そのようにしておくというのはあるかもしれない。

ただどちらにしても、横浜の区民文化センターというのは、指定管理者で運営をするので、先ほどのご意見があるように、その中でここがどう心が通うかというような、それを担保できるかどうかの方が大事。

浅野委員

指定管理者の、「管理者」という名前が良くない。管理をするという部分の接し方になる。民間企業はサービス業なのだから、サービス精神を持たなければ成り立たないはずなのに、サービス精神を忘れた管理者になると心が通わない。地域的に使えない。使わなければ、それは寂れていく。そういう施設にしてはいけない。

間瀬委員長

やはり、人間と人間のコミュニケーションになる。では最後に副委員長から一言。

相原副委員長

いずれにしても、いろいろなご議論に感謝する。まだまだ話し足りない事もあると思うが、時間もあるのでこの辺で締めさせて頂くが、これからも、せっかく造るのだから、機能性の良いセンターを作ってもらえればいいのかなと思う。皆さんのご意見を参考にしながら、これからも進めていきたいと思うので、どうぞご協力のほどよろしくお願いしたい。

間瀬委員長

最後に私から。管理者が誰になるかによって、という話があったが、まちづくりの中に文化施設が機能しているというのは、この近所だと高円寺の座・高円寺がある。街と一緒に文化を作ろうとしている。なので、指定管理者が悪いという事ではなくて、やはりどういうミッションを持って、どのような形で彼らが運営できるような体制をつくるかということだろう。

会議は今日で終わるけれども、この後、この基本構想をまとめて、答申と言う形にするという事になる。それでは、予定の時間になったようなので、これで、今後の答申の取りまとめについては事務局から説明をお願いしたい。

事務局

本当に皆さんの熱い思いがあって、議論を重ねてもなかなか尽きない所であろうと思う。ただ今、委員長からもあったように、答申としてまとめさせて頂いて、皆様の思いを局に届けるという作業も必要になってくるので、できれ

ば今頂いた、例えば瀬谷らしさをどこかに謳っていく、それから区民の皆さんの参加の可能性を答申のどこかに謳っていく、その他の整理をさせて頂いた上で、できれば委員長、副委員長にその確認を一任頂ければ、今日頂いたものを整理して、確認して頂くということにさせて頂ければと思うが、よろしいか。

一同

(了承)

事務局

よろしければ、今日頂いた事も含めて、整理をさせて頂いた上で、委員長、副委員長に確認頂いた上で答申としてまとめさせて頂ければと思う。

11月から4回、長い期間ご議論頂き、感謝申し上げます。この答申をまとめた後、委員長、副委員長の方から区長の方へお渡し頂いて、それをしかるべき部署の方へ届けさせて頂く。

それでは、最後に区長の薬師寺からご挨拶申し上げます。

区長

委員の皆様、今年の11月から、かなりハードなスケジュールで熱心にご議論いただき感謝申し上げます。今回、かなり具体的な答申の案をいただき、イメージがわいてきたところであるが、さらに本日の議論で「瀬谷らしさ」とか、指定管理者への引き渡しの仕方とか、重い宿題をいただいたと思っている。今後委員長、副委員長一任ということで、よろしくお願ひしたい。これからハードの整備、指定管理者の選定、実際の運営と進んでいくが、区民の皆様とともに素晴らしい区民文化センターをつくっていくスタートだと改めて感じた。引き続きの区民文化センターへのご支援をお願い申し上げて、最後にお礼のあいさつとさせて頂きたく。改めて感謝申し上げます。

事務局

それでは、これを持って第4回区民文化センター基本構想検討委員会を終了すると共に、答申を提出した時点で、委員会を解散とさせて頂きたい。皆様、本当に感謝申し上げます。(以上)